



# 校長室だより

R5.3.7.号

岐阜市立東長良中学校

## 令和4年度 卒業式 式辞

厳しかった寒さも一気に和らぎ、校庭にも春の訪れを感じるようになりました。この良き日に卒業生の皆さんに卒業証書を授与いたしました。ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。本校での3年間で、お子様が立派に成長されました。これまでのご理解とご協力にお礼申し上げます。また、ご来賓として、PTA会長 小森正悟(こもり しょうご)様にご出席賜り、心よりお礼申し上げます。

皆さんの中学校生活は、臨時休校ではじまりました。これまで誰もが経験したことのない4月。そして、先の見えない不安のなか、2か月遅れて新学期を再開しました。仲間とかかわりを通して成長する中学生時代にも関わらず、思うような経験をさせてあげることができませんでした。学年が進むにつれ、コロナとの向き合い方がわかってきました。それに伴い、少しずつ以前の活動を取り戻すことができました。3年生となった今年度は修学旅行、規模は小さいながらもスポーツフェスタ、ハーモニーフェスタなどの行事を再開しました。

ただ、先ほど以前の活動を取り戻したと言いました。それは私たち大人の立場の視点でした。私たちは過去にとらわれ、過去に戻すことに懸命でした。しかし、皆さんにとってはどれも初めての経験。皆さんには新しい未来をつくるという発想がありました。

SDKは、たった一日の午後の行事でしたが、とても印象深い行事でした。今年度、はじめて学年を越えた交流。笑顔があふれました。そこには、過去にとらわれず、その時その時に一番よいものを創るという未来志向の発想がありました。教師の発想では実現できなかった行事です。私たちは、未来志向の発想を皆さんから学びました。

本校は3年前より、少人数学習による学び合いを行っています。どの学級も学習委員や学級教科係会を中心に自分たちで学習を創り上げてきました。特に3年生の皆さんは、下級生の見本となる取組をしました。それにより、学ぶことに興味や関心をもって粘り強く学習に取り組む力、互いに関わり合って活動することを通して自己の考えを広げ深められる力がつきました。単に知識や技能を身につけるだけでなく、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えをもとに創造したりすることにつながっていきました。これこそが、予測できないような時代に対応できるという、今私たちに求められている力です。

我が国は、近くは東日本大震災、阪神大震災など、様々な困難を乗り越えてきました。今は、新型コロナウイルスという過去に経験したことのない感染症と戦っています。これから、いろいろな困難なことに出会うと思いますが、皆さんなら東長良中でつけた力を発揮して、乗り越えることがで

きると思っています。

さて、皆さんとお別れするにあたって贈る言葉、いろいろ考えましたが、やはりこの言葉になります。「協・優・敬・怒」、言うまでもなく、本校のいじめ克服の取組です。今、世界では国家による争いが絶えませんが、国と国の間に協・優・敬・怒の心があればと心を痛めます。その協・優・敬・怒の心を育てるHEROプロジェクト、自分や周りの人を幸せにする取組です。皆さんのHERO宣言振り返りを読みました。考えが深まった、卒業後も大切に持ち続けていきたいという気持ちが伝わってきました。取り組んできて本当に良かったと感じた瞬間でした。これからも、本校の卒業生として、「協・優・敬・怒」の4つの心を大切にしてください。中学校生活を上回る素敵な経験をして、自らの幸せに向かって歩んでください。皆さんの将来の幸せを願うとともに未来を皆さんに託します。